

公表

令和6年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援事業所ぷらみんぼーと（児童発達支援）※重症心身障害含む		
○保護者評価実施期間	2024年10月15日		2024年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	603名	(回答者数) 148名
○従業者評価実施期間	2024年12月2日		2024年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 24名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種による連携した支援	多職種が連携し、多角的な視点でお子さんや保護者の支援に当たっている。	それぞれの専門性をより活かした支援が行えるよう職種間の連携を密にしていく。
2	専門性を活かした支援	各専門職がそれぞれの専門性を活かして個別的・専門的な支援を行っている。	より専門性の高い支援が提供できるよう、外部の専門家から助言を受けたり、職員の研修参加の機会を設け、質の向上を図っていく。
3	お子さんや保護者に寄り添った支援	療育の振り返りだけでなく、ご家庭や保育園・幼稚園等でのお子さんの様子を伺ったり、保護者のご相談に応じる時間を設けている。また、お子さんが通われている保育園・幼稚園と適宜連携を図っている。	今後も療育時間だけでなくお電話にて随時保護者のご相談に応じたり、保育園・幼稚園との連携を深められるよう方法を検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の場が少ない	個別療育を利用している保護者は他の保護者と接する機会が少ない。	就学に関する説明会や保護者教室等を通して、保護者同士が交流できる機会を作っていく。
2	ホームページ等での情報発信	ホームページに掲載されている情報量が少ない。	必要な情報が得られるようホームページの内容を充実させ、事業所からの情報を発信していく。
3	災害時の対応についての周知不足	定期的に訓練を実施しているが、参加できるお子さんや保護者が限られている。	災害時や緊急時の対応について、職員に周知するとともに、保護者へ周知・説明していく必要がある。